



多くの人の支えがあつて、試合はできる
 家本政明さん 元サッカープロフットボールリフェリー

良い試合を届けることが、審判の役割

家本さんはJリーグを代表する審判として20年にわたり活躍。かつてはルール厳守にこだわらなくなり、選手やサポーターから批判されることもあつたようです。しかし、審判の捉え方がある時期から変わったと話してくれました。「審判の役割は、より良い試合を選手とともにつくることだと気付いたんです。ルールは、そのためのひとつの基準ではない。それからは選手がどういう気持ちで戦っているのかを理解しようという心がけました。安心感と信頼感をもってプレーしてもらえよう」。時には厳しく時には包容力を持って、選手やサポーターに向き合いながら審判を務めたそうです。その気持ちが変わったのでしょうか。昨シーズン、家本さんが惜しまれながら引退された際には、最後の試合で世界でも珍しい引退セレモニーが行われ



ました。かつて批判を浴びた審判が、みんなから愛されながら引退していったのです。

試合を支えてくれる人を笑顔に

スポーツでは、仲間や審判にリスペクトしようと盛んにいわれていることについて、家本さんは「例えば、それは審判にただ従うということではありません」と話して



くれました。「この意味を知るには、子供たちも自分で審判を行ってみるのが良いと思います。選手への対応やその時の気持ちを経験することで、審判の大切さや大変さを理解できるようになりますから。さらに、試合は多くの人の支えがあつてできることを知るきっかけにもなります」。

そして、人の支えを知ることの大切さについても話してくれました。「仲間や試合を支えてくれる人たちが笑顔にすることが、フェアプレーの根本的な考えだと私は思います。だから感謝の気持ちが必要だし、されたくないことはない。さらには本気でないと人の心は動かさません」。

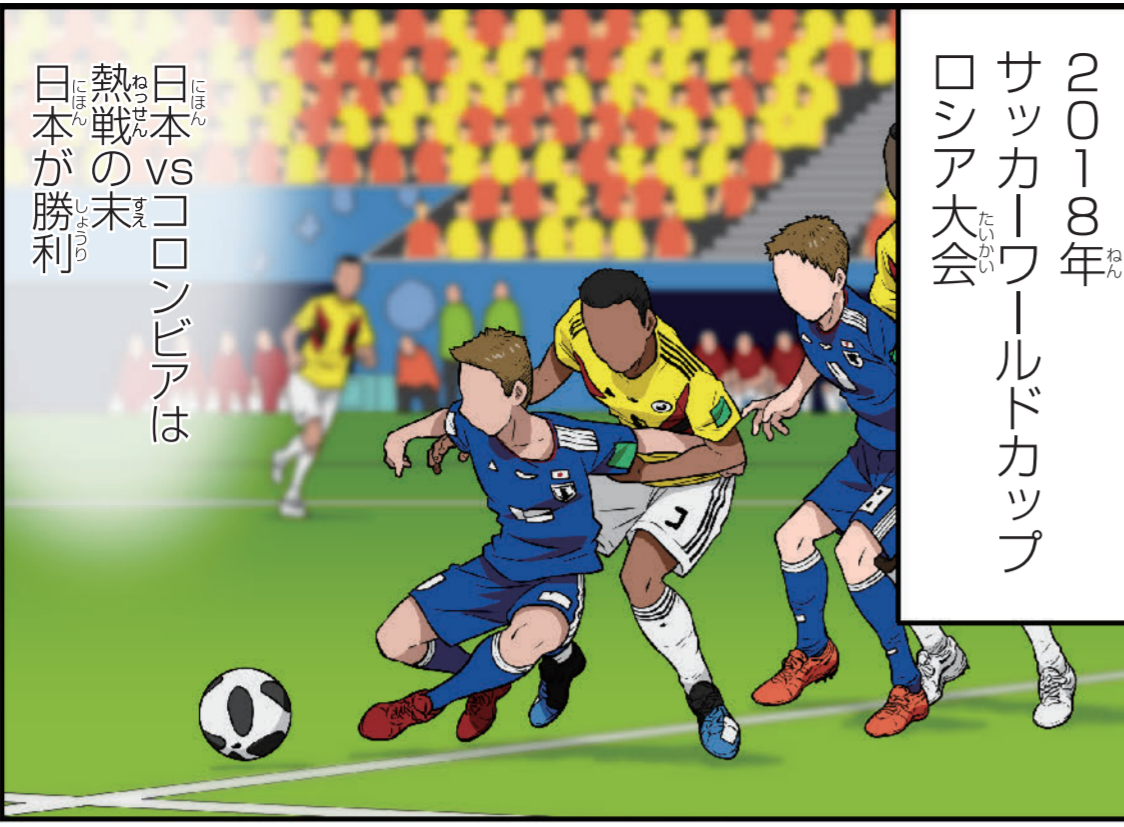


お手本は日本サポーター

各国のサポーター



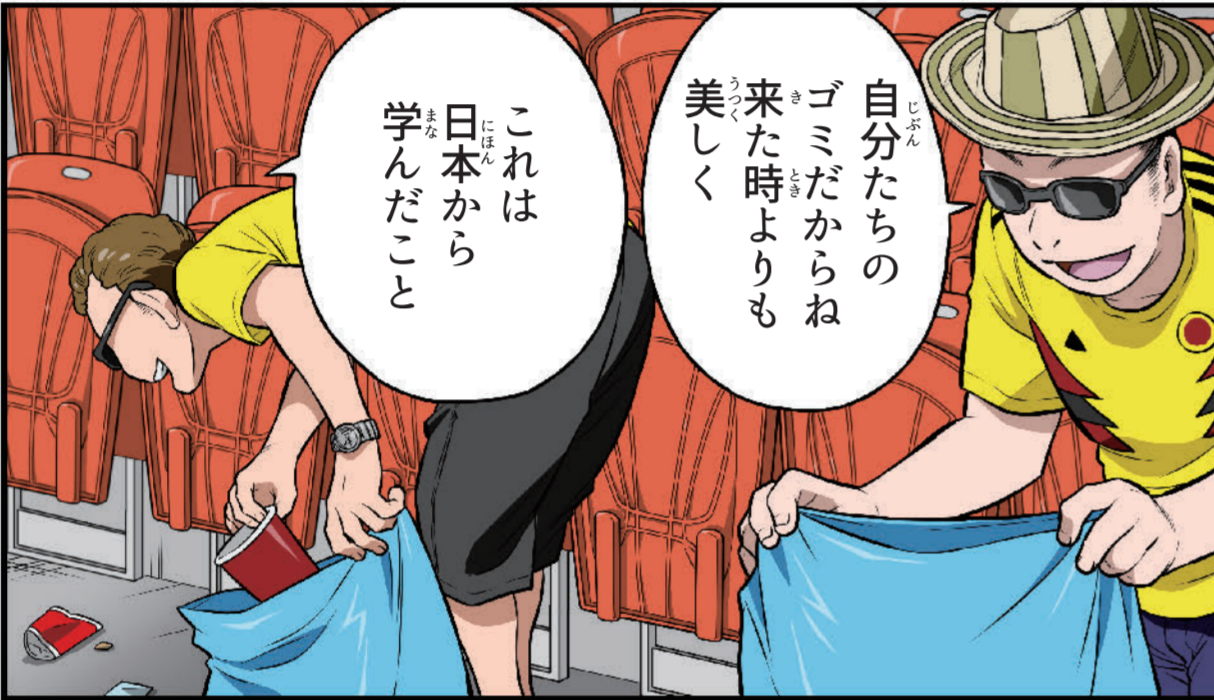
2018年 サッカーワールドカップロシア大会



日本vsコロンビアは熱戦の末、日本が勝利



試合後 日本のサポーターがゴミ拾いを始めると、私たちがお手伝いしよう！



自分たちのゴミだからね、来た時よりも美しく
 これは日本から学んだこと

実は世界では、試合後のスタンドはゴミで汚いのが普通のことだったが、これまでの大会で日本のサポーターが掃除する姿が紹介され

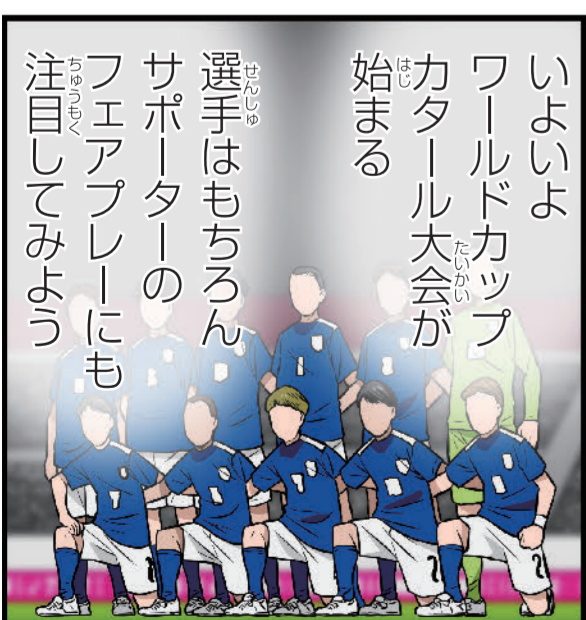


さらにこの大会では多くの国でゴミ拾いする姿が見られた
 セネガル アラビア ウルグアイ

それに共感した各国のサポーターが行動に移したのだ



ロシア大会の会見で...
 日本人の行いが世界に称えられ、他の国のサポーターも同じことをしてくれているのはとても誇らしく思います



いよいよワールドカップカタール大会が始まる。選手はもちろんサポーターのフェアプレーにも注目してみよう